

日本人口学会2019年度第1回東日本地域部会

日本人口学会2019年度第1回東日本地域部会は、2019年11月24日（日）に札幌市立大学サテライトキャンパス（北海道札幌市）において開催された。もともとは10月12日（土）に同じ場所で開催予定であったものの、台風接近により延期された。延期の効果によるものか、当日は10報告に加え約20名もの参加があり、活発な質疑応答が交わされた。テーマ的にも、地域人口を中心として、出生・死亡・人口移動・外国人人口・地方人口ビジョンおよび地方版総合戦略など多岐にわたるとともに、様々なデータを駆使した最新の研究成果が多く報告され、有意義な機会であった。以下に報告タイトルを記す。

1. 原俊彦（札幌市立大学 名誉教授）「結婚・出生タイミングの遅れと出生力低下の関係」
2. 清水昌人・小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）「2地域モデルを用いた大都市圏出生者割合の分析」
3. 小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）「近年における外国人の地域別人口動向」
4. 佐々木優二（北海道立総合研究機構）「東川町における移住起業家と移住者の転入要因に関する研究」
5. 中出章太（北海道総合政策部地域創生局地域戦略課）「北海道人口ビジョンの検証と次期北海道創生総合戦略策定の方向性について」
6. 鎌田健司・小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）・山内昌和（早稲田大学）「移動経歴が初婚行動に与える因果効果の推定」
7. 貴志匡博・小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）「国勢調査人口と住基人口の差異 一年齢、地域別の傾向一」
8. 長谷川普一（新潟市 GIS センター）「国勢調査と行政情報の統合マイクロデータについて」
9. 菅桂太（国立社会保障・人口問題研究所）・石井太（慶應義塾大学）・別府志海（国立社会保障・人口問題研究所）「日本版地域別死亡データベースの作成と今後の課題」
10. 丸山洋平（札幌市立大学）「札幌市の人口移動―道内・道外移動の男女差に着目して―」

（小池司朗 記）

世界的なセクシュアルヘルスデータのニーズに対する技術会議（京都）

2019年11月25日から27日の3日間、京都大学において世界的なセクシュアルヘルスデータのニーズに対する技術会議（Technical Consultation on Global Sexual Health Data Needs）が行われた。この会議は京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院、WHO が連携して開催したもので、東アジア各国において性行動を研究する主に公衆衛生分野の研究者が集まった。会議の参加者には事前にロンドン大学衛生熱帯医学大学院の研究チームが作成した性行動に関する指標の国際比較を行った報告書（Life Events, Sexual Partnership, Sexual Practices and Frequency, Contraception, Condom use の5つの視点から構成されている）が配布され、アンケートへの回答が求められた。会議はこの事前配布資料とアンケートの回答内容に基づいて進められた。

1日目、2日目は事前配布資料に基づいた報告と質疑応答、グループディスカッションが行われ、セクシュアルヘルスに関するデータの現状について意見交換がなされた。東アジア各国、もしくは世